

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

基本事務事業名] 貴重・希少な野生生物の保護事業（101）
 評価年月日] 平成12年11月14日
 主担当部課名] 環境部 自然環境課
 記入課名・課長名・電話] 自然環境課・課長 木平悦生・2580

1 総合計画の政策体系上の位置づけ

政策：自然との共生の確保 (Ⅲ－1)

施策：生物の多様性の確保 (2)

総合計画の目標項目：レッドデータブック記載種数

波及効果・副次的効果を及ぼすと考えられる施策：多様な自然環境の保全・創出

2 基本事務事業を巡る環境変化 過去、現状、将来)

(過去→現状)：各種の開発等に伴い野生生物の生育・生息環境が悪化しており、貴重・希少な野生生物の減少が危惧されている。こうしたなか、県民の野生生物への関心が高まり、県内各地に保護団体等が結成され、野生生物の保護活動が活発に行われるようになってきている。

(現状→将来)：今後も、貴重・希少な野生生物が減少するものと予測されることから、県民の関心はますます高まり、住民等と協働して野生生物の保護・保全活動に取り組むことが重要となる。

3 基本事務事業の目的と成果

3-(1) 対象と意図 何をどういう状態にしたいのか)

県内に生息する貴重・希少な野生生物を、これ以上減少しないようにする。

3-(2) 成果指標名・成果指標式 総合計画の目標項目には＊を付す)

野生生物希少度

危惧種数

＊ $\frac{\text{レッドデータブック記載種数}}{\text{レッドデータブック記載種数}}$

②変更した場合の成果指標名・成果指標式

成果指標名 → 希少野生生物の危惧度

3-(3) 設定した成果指標に関する説明 指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など)

県内に生息する貴重・希少な野生生物の保護・保全を図ることにより、三重自然誌の会編「自然のレッドデータブック・三重」に記載されている種（458種）のうち、危惧種数（160種）を増加させないこととする。

3-(4) 結果 施策における2010年度の目標)

人間の生存基盤である生態系への配慮が進み、多様な野生生物の生育・生息環境が保全、創出され、生物の多様性が保たれています。

4 基本事務事業の評価

4-(1) 前年度（H11年度）における基本事務事業の結果評価

①前年度に行った内容と成果

鳥獣保護区の設定、鳥獣保護員による保護区の管理、野生生物保護思想の普及・啓発等を実施したことにより、多様な野生生物の生育・生息環境が保全されるよう努めた。

②前年度に残った課題

生物の多様性確保のため、野生生物の生育・生息に適した森林づくりを積極的に推進する必要がある。

4-(2)本年度(12年度)における基本事務事業の見込み評価

①本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

鳥獣保護区の設定、鳥獣保護員による保護区の管理、野生生物保護思想の普及・啓発等を実施したことにより、多様な野生生物の生育・生息環境の保全に努めている。

また、人と野生鳥獣の共存を図るため、「野生鳥獣にやさしい森林づくり推進モデル事業」を6年計画で実施することにより、生態系保全機能の高い森林が形成される。

②本年度残ると思われる課題

県民の自然保護への関心が高まる中、県民からの相談・要望等に的確かつ迅速に対応する必要がある。各種情報の収集や提供を積極的に行うことにより、住民等と協働した野生生物の保護対策を進める必要がある。

また、サルやシカ等による農林産物への影響から、これらの鳥獣について適正な保護管理を計画的に進める必要がある。

5 基本事務事業の改革方向

野生生物の保護に関し、県民の関心が高まるなか多種多様な要請に応えるためには、既存事業では対応が困難なものについて緊急的に実施する必要がある。

このため、専門的知識を有する職員の配置や外部専門家による指導体制の確立を図るほか、市町村、地域住民が参画した地域の貴重・希少な野生生物調査や移入種調査を行い、地域住民の合意を得たレッドデータブックの作成に取り組むなど、県民の多種多様な要請に応えるとともに住民等との協働による貴重・希少な野生生物の保護に努める。

また、シカ等の保護管理計画を策定することなどにより、適正な野生生物の保護・保全を図り、生物の多様性の確保に努める。

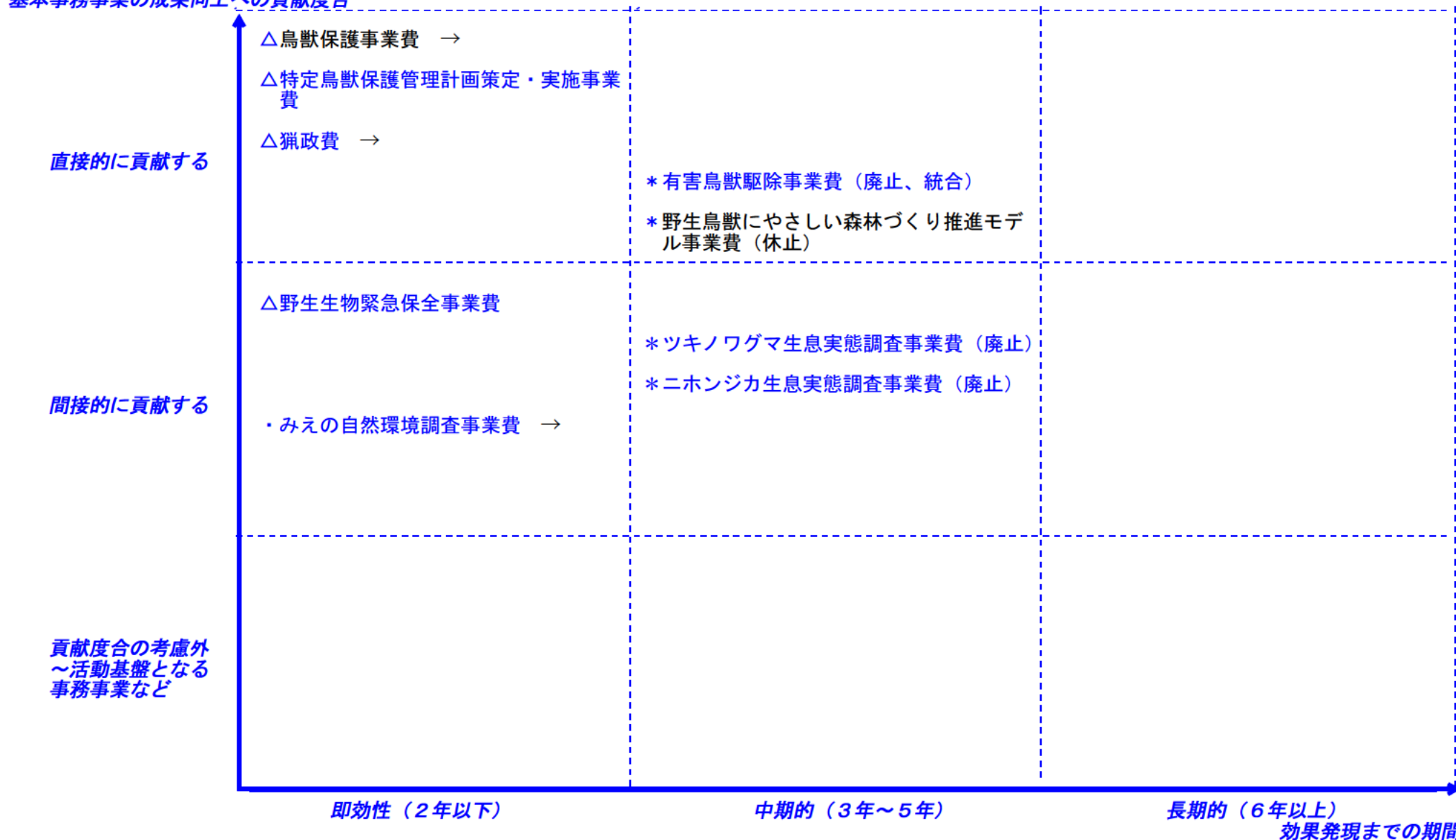
6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画 目標数値	予算額等 (千円) 所要時間 (時間)		必要概算 コスト(千円)
	目標	実績				
前々年度 (H10年度)	160/458 = 0.35	0.35	1994 年度のレベルで維持	61,404 15,000		124,104
前年度 (H11年度)	0.35	0.35	同上	68,686 13,861		126,210
本年度 (H12年度)	0.35	--	同上	73,422 16,978		144,560
本年度補正後 (H12年度)	0.35	--	同上	△ 8,774 0		△ 8,774
翌年度 (H13年度)	0.35	——	同上	48,061 16,608		117,649
計画目標年次 (H13年度)	0.35	——	同上	——		——

7 翌年度(H13年度)の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM: Project Portfolio Matrix)

〈必要概算コスト： ☆5億円以上 ◎～1億円 ◇～5千万 △～1千万 ・1千万未満 *休止・廃止〉

基本事務事業の成果向上への貢献度合



基本事務事業名： 貴重・希少な野生生物の保護事業

4 / 4

8 基本事務事業を構成する事務事業の詳細

※ 新規事務事業には、事務事業名に (新) を付す

事務事業名 (担当課)	成果指標名	事務事業の概要	13年度 予算額 (千円)	予算額 前年度比 (±千円)	13年度 所要時間 (時間)	所要時間 前年度比 (±時間)
みえの自然環境調査事業費 (自然環境課)	野生生物の把握度	生物多様性保全施策の基礎資料となる野生動植物の分布調査を実施する。	2,575	△ 205	370	0
猟政費 (自然環境課)	狩猟安全度	適正な狩猟行政を推進するため、鳥獣保護員の配置、保護員・行政担当者の研修、狩猟取締り、狩猟者指導を行う。	15,792	＋ 949	6,410	0
鳥獣保護事業費 (自然環境課)	生息環境安全度	鳥獣保護区の設定及び管理、キジ等の放鳥、傷病鳥獣の救護等を行い、野生鳥獣の保護繁殖を図る。	12,986	＋ 2,815	6,028	＋ 1,200
ニホンジカ生息実態調査事業費	野生生物の把握度	本県に生息するニホンジカについて、その分布状況、生息数や環境利用状況の現状を把握し、保護管理対策を推進するための基礎資料を整備する。	0	△ 6,270	0	△ 370
有害鳥獣駆除事業費 (自然環境課)	被害軽減度	有害鳥獣を駆除することにより、農林水産業の振興と野生鳥獣の適切な保護管理を図る。	0	△ 3,041	0	△ 1,200
野生生物緊急保全事業費 (新) (自然環境課)	レッドデータブック記載種数	県民参加のレッドデータブック作成、移入種対策の実施、野生生物専門職員の配置、外部専門家によるアドバイザー制度の設置により、野生生物の保護対策を推進する。	6,887	△ 13,526	1,800	0
特定鳥獣保護管理計画策定・実施事業費 (新) (自然環境課)	保護管理計画進捗度	ニホンザルについて、農林産物への被害対策を考慮し、適正な保護管理を図るための保護管理計画を策定し、必要な事業を実施する。	9,821	＋ 6,421	2,000	＋ 1,000
ツキノワグマ生息実態調査事業費 (新) (自然環境課)	ツキノワグマ把握度	紀伊半島に生息するツキノワグマについて、人・農林産物への被害を考慮し、適正な保護管理計画を策定するため、奈良県、和歌山県と合同で生息実態調査を実施する。	0	△ 3,730	0	△ 1,000